

トビウオ通信 (11月号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 16 年度下半期浮魚中長期漁況予報》

平成 16 年 10 月に福岡市において、東シナ海～日本海西南海域にかけての対馬暖流域における主要浮魚類（マアジ、マサバ、マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ）の長期漁況予報会議が開催されました。今月は会議内容をもとに、平成 16 年度後期（H16 年 11 月～H17 年 3 月）の中・長期的な漁模様の予測をします。

漁況(来遊)予報(H16年11月～H17年3月)

マアジ：前年並み

ウルメイワシ：前年並み

マサバ：前年をやや上回る

マイワシ：極めて少ない

カタクチイワシ：前年並みで平年を下回る

マアジは前年並み！！

平成 16 年 1～9 月までの島根県～青森県における主な漁業でのマアジの漁獲量は 4 万 7 千トンで平年(過去 5 カ年平均)の 114%、前年の 140%と好調に推移しました。特に隠岐周辺海域での漁獲が好調で平年を 72%も上回りました。また、県西部では 8 月以降も 1 歳魚(平成 15 年生まれ)の漁獲が好調で漁獲量、金額ともに平年を上回りました。

今後の島根県沖におけるマアジの見通しですが、秋以降漁獲の中心となる 0 歳魚(平成 16 年生まれ)の資源水準は昨年よりは低いと推定されるものの、1 歳魚(平成 15 年生まれ)の資源状態が良いことから、全体として前年並みの漁模様になると推測されます。

マサバ前年をやや上回る！

平成 16 年 1～9 月までの島根県～青森県における主な漁業でのマサバの漁獲量は 5 千トンで

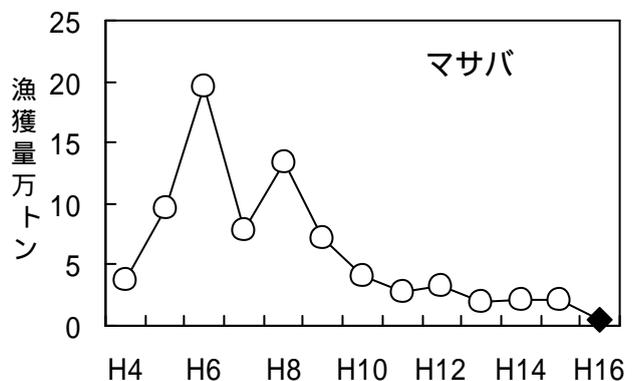
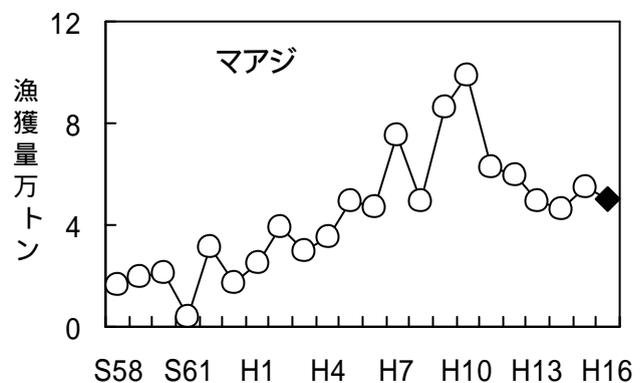


図1 島根県～青森県におけるマアジ、マサバ漁獲量の推移(H16年は9月までの集計)

平年の33%、前年の35%と低調に推移しました。昨年秋以降漁獲が低迷しており、平成15年に生まれたマサバの資源水準が低かったことが伺えます。

今後の島根県沖におけるマサバの見通しですが、資源の急激な改善は期待できませんが秋以降漁獲に加わる0歳魚（平成16年生まれ）の資源水準は昨年よりは高いと推定されることから、前年をやや上回る漁模様になると推測されます。

**カタクチイワシは前年並みで、
平年を下回る。**

平成16年1～9月までの島根県～青森県における主な漁業でのカタクチイワシの漁獲量は1万トンで平年の39%、前年の48%と低調に推移しました。平成13年に漁獲が落ち込んで以降、近年は増加傾向にありましたが、昨年の秋漁、本年の春漁ともに不漁に推移しました。

西海区水産研究所が夏季に実施した調査によると本年の資源量は前年を上回っていると推定され、秋以降長崎県以南での漁獲状況は良好なものの、他の海域では漁獲量が増加していないようです。

今後の島根県沖におけるカタクチイワシの見通しですが、九州北方海域から日本海に掛けては秋漁も低迷しており、あまり期待は出来ないようです。

ウルメイワシは前年並み

平成16年1～9月までの島根県～青森県における主な漁業でのウルメイワシの漁獲量は5,187トンで平年の184%、前年の136%と近年では好調に推移したものの、長期的には依然として低位に有るようです。漁獲の大半は隠岐周辺海域で夏季に獲られたものでした。

今後の島根県沖におけるウルメイワシの見通しですが、九州沿岸から日本海にかけて漁獲が前年を上回っており、前年並み程度の漁獲は期待できると考えられます。

マイワシは極めて少ない

平成16年1～9月までの島根県～青森県における主な漁業でのマイワシの漁獲量は886トンで平年の14%、前年の126%で、依然として極めて低い資源状態にあります。今後もまとまった漁場形成は見られず、散発的に沿岸域で漁獲される程度と考えられます。

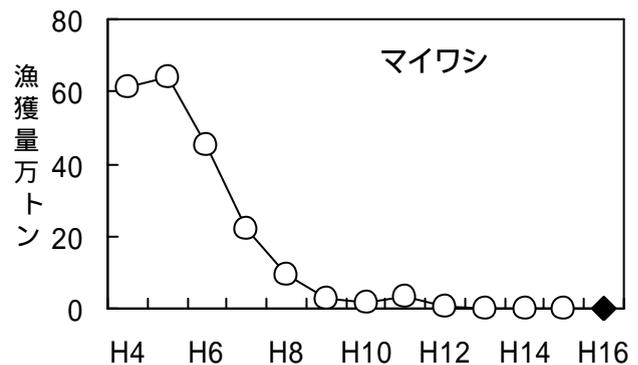
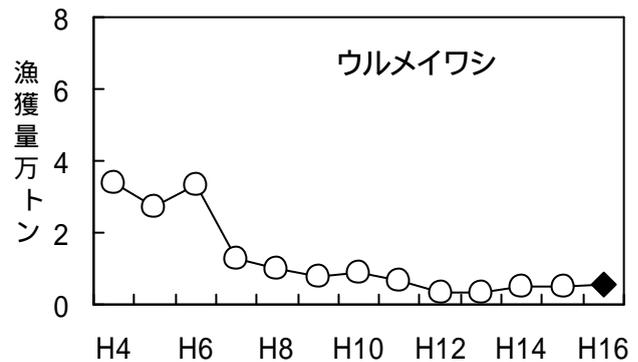
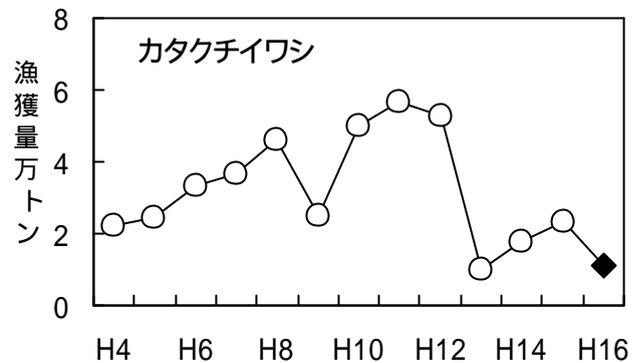
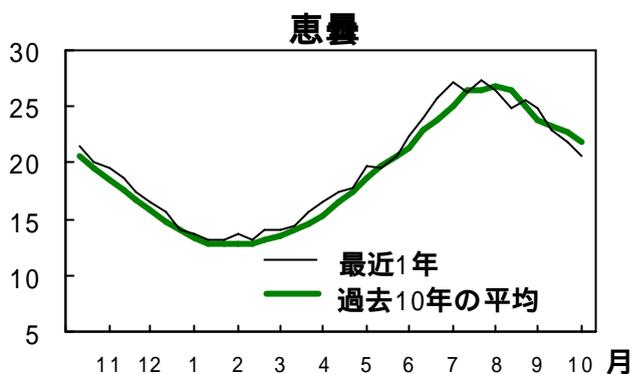
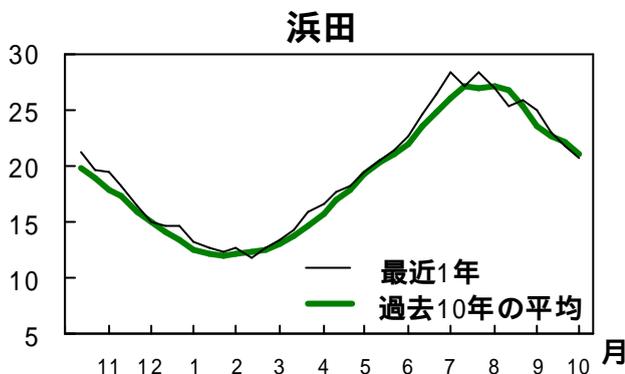


図2 島根県～青森県におけるカタクチイワシ、ウルメイワシ、マイワシ漁獲量の推移 (H16年は9月までの集計)

《 10月の海況 》

10月	月平均	平年差	評価
浜田	21.8	-0.2	平年並み
恵曇	21.8	-0.8	平年並み

10月の平均水温は浜田、恵曇ともに21.8 となりました。台風等の影響により、前月よりも約3 降温し、両地区ともに「平年並み」の水温となりました。



島根・鳥取・山口県の各水産試験場が実施した海洋観測結果(10/25~11/4)によると各層の水温は、表層(0m)が17.3~22.0(平年差は±0.0~+2.8)、中層(50m)が5.5~22.0(平年差は-5.5~+6.7)、底層(100m)が2.1~19.5(平年差は-3.4~+8.3)となっていました。表層水温は21 前後で、沿岸から沖合海域まで広い範囲で様な水温分布となっていました。中、底層では、島根沖冷水域の勢力が例年よりも弱く、沖合海域の広い範囲で平年を3 近く上回っていました。特に隠岐諸島北方海域では暖水域が見られ、平年を3~8 も上回っていました。

山陰沿岸海域の水温は、表層では「平年並み~かなり高め」、中層では「かなり低め~はなはだ高め」、底層では「やや低め~かなり高め」となりました。

<エチゼンクラゲ情報>

10/29、平田市の定置網に40~50 個体入網しました。島根半島で今年これだけ入ったのは初めてでした。

大社町の定置網に100 個体入網(11/04)、湖陵町の定置網に160 個体入網(11/05)。江津市の定置網に70~80 個体入網(11/08)。その他、島根町・温泉津町等の定置で散発的に数十個体の入網がありました。

<<発信機をつけたクラゲを見つけたら御一報を!!>>

10/25 日に水産工学研究所が江津市沖でエチゼンクラゲに発信機を取り付けて放流しました。発信機は黒色の15cmほどの大きさで魚釣りの浮きのような形をしており、クラゲの傘と腕の間に黒いバンドで取り付けられています。発見された方は、[島根県水産試験場までご連絡ください](#)。TEL 0855-22-1720

《 10月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量は、マアジ主体に512トン、総水揚金額は8,096万円でした。1 統当りの漁獲量は171トンで、平年(過去5 年平均)の54%、前年の144%でした。水揚金額は2,699万円(平年の98%、前年の166%)でした。漁獲量は平年を下回りましたが、マアジの単価が良かったため水揚げ金額は平年並みとなりました。西郷では、マアジ、ブリ主体に総漁獲量2,850トン、総水揚金額は2億7,169万円でした。1 統当りの漁獲量は475トン(平年の50%、前年の63%)、水揚金額は4,528万円(平年の78%、前年の93%)となりました。浦郷ではマアジ主体に総漁獲量1,278トン、総水揚金額は1億3,054万円でした。1 統当りの漁獲量は320トン(平年の53%、前年の61%)、水揚金額は3,264万円(平年の80%、前年の73%)でした。10月は時化が多く出漁日数が少なかったことや、8月以降、県東部で好調であったブリの漁獲量が約半分に減少し、サバ類の漁獲が県全体で平年を下回っているため低調な漁模様となりました。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、ケンサキイカを中心に66トンで平年(過去5 年平均)の52%、前年の22%、水揚金額は9,078万円(平年の109%、前年の40%)となりました。西郷のイカ釣船(5トン以上)の漁獲量はスルメイカ主体の51トン(平年の69%、前年の65%)となりました。浜田ではスルメイカの漁獲量が7トンで平年の20%、ケンサキイカが58トンで平年の66%に留まったものの、両魚種ともに平均単価が平年の約1.5倍となったため水揚金額は平年を上回る結果となりました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではムシガレイ、アンコウ、アナゴ・ハモ類、ケンサキイカが漁獲の中心でした。前年同月に比べ1統当り総漁獲量では22%、水揚金額では3%下回りました。カレイ類、イカ類の落ち込みが大きく、1統当り、前年同月の4割～7割の漁獲量に留まりました。

恵曇港ではキダイ、アナゴ・ハモ類、アンコウ、ヤナギムシガレイが漁獲の中心でした。1統当り総漁獲量では前年を35%上回りましたが、水揚金額は前年並みに留まりました。魚種別ではキダイ、アナゴ・ハモ類は前年同月の2倍程度の漁獲がありましたが、ヤナギムシガレイは前年の59%、アンコウでは61%に留まりました。

【小型底びき網漁業】

大田市漁協では、漁獲量で前年を13%下回りましたが、金額は前年を2%上回りました。主な漁獲物はニギス、アンコウ、ムシガレイで、ニギスは前年の75%、ムシガレイはほぼ前年並みの漁獲量に留まりました。

和江漁協では漁獲量は前年を8%下回りましたが、水揚金額は4%上回りました。キダイ、アンコウが主に漁獲され、両魚種とも前年の1.5倍程度の漁獲がありました。

イカ類ではケンサキイカの漁獲量が落ち込んでおり、両漁協とも前年の2割～3割程度の漁獲に留まりました。一方、少ないながらヤリイカがまとまっています(大田市11.4トン、和江7.8トン)

【定置網漁業】

県東部では漁獲量は前年および平年を上回りました。水揚金額は前年並ですが、平年を下回っています。県西部、隠岐は漁獲量・水揚金額ともに前年および平年を下回りました。県東部ではサワラ類、マアジが主体でサワラ類は前年の2倍、マアジは4倍の漁獲量となっています。その他ではカワハギ類などが漁獲されています。県西部でもマアジ、サワラ類が主体でサワラ類は前年の4倍の漁獲量となっています。隠岐ではマアジが主体ですが、前年の8割程度の漁獲量となっています。その他ではウルメイワシ、カワハギ類などが漁獲されています。

【釣・縄】

県東部では漁獲量は前年および平年を下回りました。水揚金額は前年を下回りましたが、平年を上回っています。県西部は漁獲量・水揚金額ともに前年および平年並となっています。隠岐では漁獲量は前年および平年を下回りましたが、水揚金額は前年および平年を上回りました。県東部ではサワラ類が主体で、その他ではケンサキイカ、アオリイカ、ブリなどが漁獲されています。ケンサキイカは前年の3割程度の漁獲量となっています。県西部ではケンサキイカが主体ですが、前年の5割程度の漁獲量となっています。その他ではブリ、クロマグロ(ヨコワ)、メダイなどが漁獲されています。特にクロマグロは前年を大きく上回る漁獲がありました。隠岐ではクロマグロ、メダイ、ソデイカが主体となっています。クロマグロは前年の6倍の漁獲量となっていますが、ソデイカは前年の4割程度漁獲量となっています。

漁獲統計

平成16年10月1日～31日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	33	マアジ	15.5トン	512トン
	西郷	90	マアジ・ブリ	31.7トン	2,850トン
	浦郷	54	マアジ	40.3トン	1,278トン
イカ釣り (5トン以上)	浜田	542	ケンサキイカ	122kg	66トン
	西郷	267	スルメイカ	191kg	51トン
沖合底びき網	浜田	30	ムシガレイ、アンコウ	8.6トン	257トン
	恵曇	21	キダイ、アナゴ・ハモ類	5.6トン	119トン
小型底びき網	大田市	314	ニギス、アンコウ	557kg	175トン
	和江	386	キダイ、アンコウ	688kg	266トン
定置網	浜田	49	サワラ類、マアジ、ブリ	920kg	45.1トン
	美保関	93	マアジ、サワラ類、カワハギ類	1,609kg	149.6トン
	浦郷	58	マアジ、ウルメイワシ、カワハギ類	295kg	17.1トン
釣・縄	浜田	945	ケンサキイカ、メダイ、ブリ	23kg	22.2トン
	五十猛	460	クロマグロ、ケンサキイカ、ブリ	41kg	19.0トン

: 1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量÷延隻数・統数で算出しており、四捨五入した値です。